



## ニュージーランドと「ハカ」の踊り

ニュージーランドチームの応援の踊り「ハカ」が一躍、日本でも有名になり、原住民マウイ族が中心で舌を出して踊る「ハカ」が関心を集めた。孫娘は現地でのこのハカの踊りを見たという。今回は孫娘が見た「ハカの踊り」の話が中心である。

◇ ◇

野球の中心はアメリカ、ラグビーである。カ。ヨーロッパはイギリスの影響もあり、ラグビーワールドカップの円形の球を取り合うラグビー中継で、ニュージー

ランドには74%のヨーロッパ系、15%のマオリ系、12%のアジア系、7%のパシフィック系の人が住んでいる(※混血などによる複数回答を含む)。

マオリとはニュージーランドにイギリス人が入植する前から先住していた人々である。

小学校でもいろいろな民族の子も一緒に生活している。こうした「違うのが当たり前」の学校教育の中で、すべての学校でマオリ語やマオリ文化を必修内容として学んでいる。

私のホームステイ先の小学校に通っていた女の子も学校で学んだ「ハカ」の踊りを見せてくれた。「ハカ」とはマオリ族が戦いの前や和平を結ぶ際に自らを鼓舞し、自分たちの力や部族の結束を誇示するため一族の誇りを持って踊った踊りである。

リズムに合わせて足を踏んで体を叩き、舌を出して踊る。ラグビーをはじめスポーツの試合前に踊るハカに

「ハカ」を踊るマオリの人たちと孫娘



は相手を威嚇するだけでなく、相手チームへの敬意を表す意味がある。こうしたマオリ族の精神は、学校での道徳教育としても取り上げられていた。

ちなみに、ニュージーランドでは国歌の1番を英語、2番をマオリ語で歌うことになっている。このようにマオリ文化が今も大切にされているのは、1840年に締結されたワイタング条約が生きているためだ。

これは当時の英国の君主と先住民マオリとの間の条約で、ニュージーランドが英国領となっても、マオリが有する土地や文化の継承は約束するというものである。

マオリ文化が根強く残っているニュージーランドの北島にある地熱の街、ロトルアに行つた際には、多文化共生の姿はどうか。日本の先住民である「アイヌ」人々の誇りが尊重される社会を実現するための施策の推進に力を入れている。昨年施行されたばかりである。

ラグビー雑誌に紹介されたニュージーランドのチーム



ラグビーワールドカップ  
激闘の軌跡 Vol.1  
CONTENTS